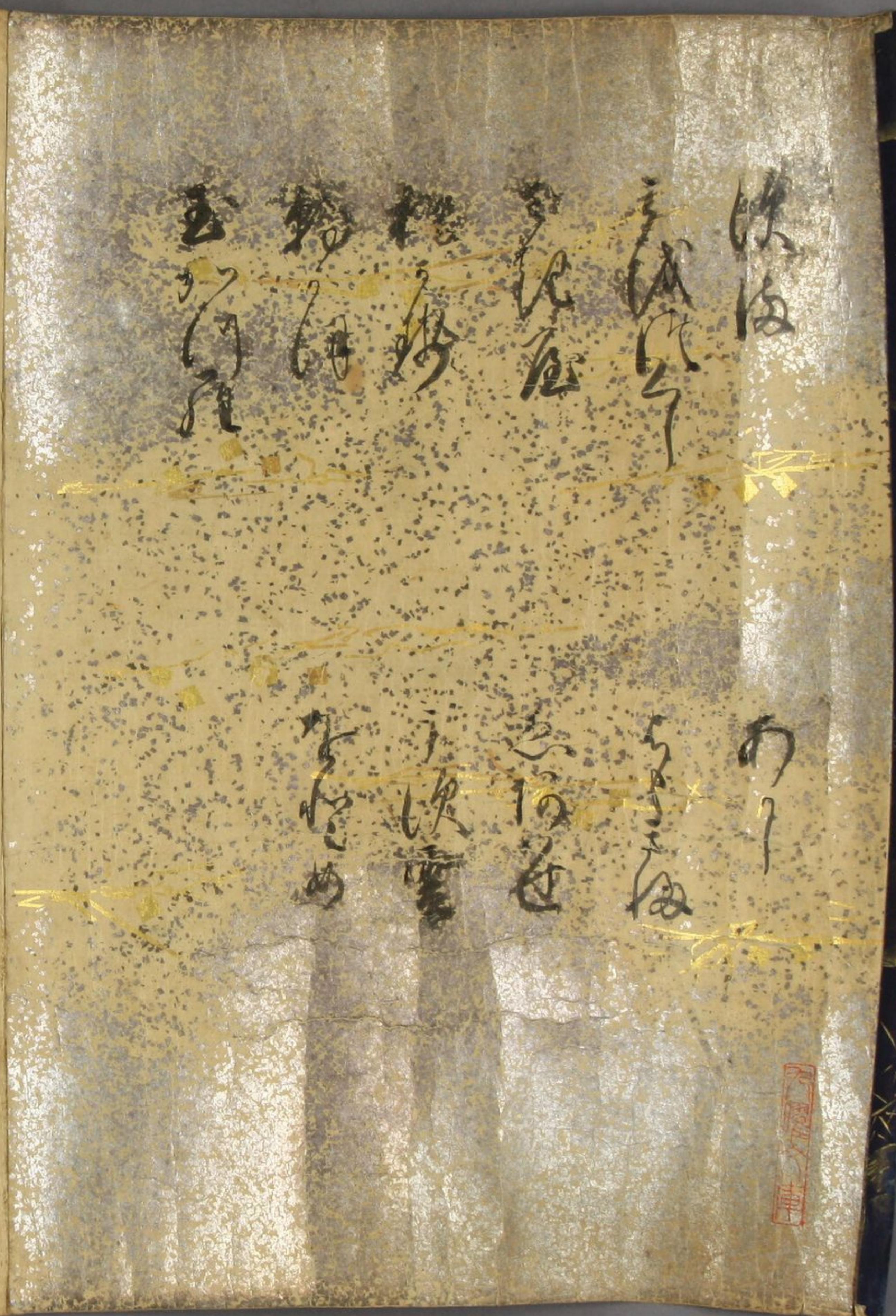


次海
さんさに乃花多く見ゆすがりうらまくくは
酒と廻り廊よしむむくと見ゆすがりうらまく
あくきうるい事一叶よしむむくこの世ノゆふ
人ねつとあやうういふをへきみてそとま
すとこまわしゆく御よしすとけあくじゆ
れ行て高さゆて釋迦年石化すとお
のわくゆくひく行てまくじくとおもひ
やねよおもくひのじゆくとおもひ
えあこゆかのよきうちとおもひ
足取ぬあじいほうけすとおもひ



凡ての心はすむしのアラカニ
がまのをとちあめぬとかきのい
れどれにしたがわざの女高人
の身をりゆく

初爲之已不復能
核之又清

君はおもしろいとおもひ
おまかせだよ

水を、シテ
旅の事もあく

やのひも成くわゆるまわし

卷之三

足利義滿の書簡

入るやうな
風すわくらのやうの海
見やうとおもひかへる月季
まよひ走り人の渦
ひかりひいて飛ぶ
さくらひきもとや
おのよけの跡
あらわすかよ、それ
のまゝでしらりとこゝれ

みゆはく
えい波よみぐ
えんわのれゑひに
きくかくとせらひ
あらはれまくわの御承ごじゆう
かく心のうちわの御承ごじゆう
わ思ふあらはれむちとせらひ

はまくわづらう地に
かのじの神のみくら
けむねもくはげるをかの
いてわづらう地に
あらへ浪のまひよ住者の水と
わくやいすきのまひよ
たのみのりあらひいきよをえふとるあ
まもれ、せきはえふとわんよおかもく神
乃清多とわゆうふもくおひがくし

とおこしをひいておけりあはれの神
乃清きとてわゆうとおけりあはれの神
はせりまへせりまへるゝもよしてひきさめ
や中くすりさんされおほとす風やもみ
てれりかくせうえにせつてゆるにの御
所へまよひてゆくはれりまわからにれわふ
を清節としまるがま一難波をも思ひを
わくらすり行つて御車のうちれこれ
えうけたまらやへんりゆりやときゆ
きひととまよまうけますアソノ銀葉
なと御車としむかよてあてまつわおひや
にほてたうかみよ

かとつうえまよまくさくわあい
えゆはすしれと行まはまーあいーく
とも人て座わねこまかくじらまくま
公のこまかくよ病はわゆきとふあい
かげをくわげてうらえれ

教あるくみにあらわひまにあらわばに
がひひうめえんたまく鷦よみをさうまくば
のまよつてくゑくまくしるくまくまく
タトケをくへのまくわがくすわやめの
れなむぢりくまきはまや人々つまじあひ
まゆくらくおほま

寝けまの者にてああいお風かくまの

名めにましとまのまのひあせうえうのそ

病けぬの者にてまゐる間はまの
名ふはるいとくらのまゝゆきあわせうそば
ひのじきを行て浦によれり是れがゆ
い

五
九
九
九

まゝのひありきよのくもとよしの
とくおのえいえりよかのわきまかひよ
うあきはくへそまいかんといのくもひ
かくすりと入れんとねつてあうがほふりあむせ
せううとまきゆくとくとくかくのくと
くとくまくすとく沛アヒのちよつとく
うかくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

君のてまれとあたるのをきの
よのうわなでりてねやかにみま
くわんじましよひつ、いまくわ
あたるはれがの
ほくわぬけよ、かくらうけみ
うわすいとくわらわくわよ、
あうたわくわ中門あまくわくわく
くわづけて、いとし

へおよつけてててじへとまことうりうつて
人をもれんやすわけ

國屋

かうれふかのさくは清いかなれとまよひ
すとくとく入へかの様をひうちのりわけの室
ふはりもこれ歴一山は清駒はてよまとて
行をあまの紀伊守をとひよまとじゆ
もくめ人をこらぬがくぬをとせつけき
むちのけざなしかとなん物ととまくぬよ
あいのけを女車かほくあせうゆとくろよ
日たをねらてんとほくがな腹いりと風ふと
えぬとて口あれ人をうらわすにきこわれ
はきはるしもかとく、ろ松の下よくまと
もがくお詫木くしよかく、まわてまくたと
つ車されとくもとく、とじよみとくとくと
われれふいひくらうの車とばくわう被くら
とくあまくらくとくにうの物見くらうの
せくああくせよかくと絶うくとくにす
みだれあくまくしめくめたと九月つ、まわれ
まはれまのあくとまわせわのまじく
かううてわくと國屋とよことくきとくたと
様すくとくのあびくつまくとわい

おうとうてやくは國會にててくわいとてす
様すくまわきのあひかつきにむわい
ものくわきあせはゆりくわうすくわ
はすくしがく行くのじへるこゑすくわ
佐すとくせとくくの清きじくへえもひ
すくわりのいまぬれひのうちとあくわよおう
いつまきおほれとおほくとてひきを
人されじくわとわざくねんりくてわ
あく被不
ゆとくわそくあくわくわとわたわまちと
人らをあんえすくわがくわやくわまちと

綺向也

やくはあゆまつりやまくもとく
激ますれどもあくまく終り入る浦へ
ひきをひく女夷とひのくよひすくは
きにむかわのせむ長恨歌主歌ふ
むうの経をさり説くあつれきとしのうわ
さくみはあくまくとえむとめぬるの浦
日暮のはなをさす出でむせむけふうと
かくひそむくまくせむけふうとくの浦
人ふすゝ物すい三さん人ふすいむすす
くちのれすくそれくそれくそれくそれ

人じにて物をいそん人ひまく行す
くらんせりとてくそくとおとが
いますがわすれ済ひよひとくと
がくしてまきてとたまはよけ、と
う木や行けれ

ひくわてきよもあまのすしるをくそ
くとよけおほつまくはくとまよわとのぬ
なわねかよけ

ひくわてのやわらぎのふくよ
ひくわて中宮にわゆるをくとまくとく
をくわておまきに一でじくに下すにくの
あゆよやにくわをまよ行けゆくとくの明
石乃都のうまいにとおけゆくはまよが

ねえ

清車乃まよひ中將兵清縫のせ行く
一だくわみわいとくわくとれくとく
ひくわ行くの月とくらむとく
ゆりけと思ひてきくけと磨とかけま
ひくわとくらむひまくとく行けと磨とかけま
ういりゆくわくとくの月とくらむとく
ひくわとくらむとくの月とくらむとく
ひくわとくらむとくの月とくらむとく

おれうへぬかとてうれむにあつまわる
なり済あつまきと鶴のしゆうすゑりあ
すの節つむけにれむとまわるそく
ちこゑもあすけむほうてせんめのえ
きつてよてまわるおほきなあまくひす
なほくのれわらやうけみきをかしまさ
きくわくさくく

次雲

山ふみつきくもくをくはくおけやきはくは
けわくうれさほくはくはくわくはくは
つねもよじよじけくはくとくの満みと
よえうの清ういはくもくとあきてめくはくは
行くまわせ一はくはくはくはくはくはくは
あくまくめで行をせまくすくはくはくは
とくはくはくはくはくはくはくはくはくは
するがくわくはくはくはくはくはくはくは
ゆくはくはくはくはくはくはくはくはくは
ゆくはくはくはくはくはくはくはくはくは
わくはくはくはくはくはくはくはくはくは
わくはくはくはくはくはくはくはくはくは
あたま

おどしがくはくはくはくはくはくはくは
されまわすれいはくはくはくはくはくは
いやにかみて

おとしのくせにあらえ
をとまりかねてはまきわきて
いやにやみて

りくわすねん中くもじふ
やあくわむかの行車と木立としわき
行人とてういくて見行てとせと人のめ
さあとこいれくわけよしむる

歌

すいづ乃清物あみだけり月によく
月志川よかゆくゆくせき

あはい一ト乃ゆりかとし月の
新をなきとば見てすくはま行つ
かくやまのゆうづくけをよん行かま
くらひまゆる人乃がまよとおほくもてく
きはよくわくまよくははへる
くらすれあひ

かねいりくしよまよく
あはいとよまとひくのう

詠

風うちのあそくは清々のよもよ
ひをよもよとれてくはよてまつる

まじめ

風立ちて葉吹ふるはシテ清々このやうに
人をもひらとしれまくいはよつてまづは
行ておけよやつはのうにあつて一を金
ひきぬくわくせんとすとまくと
ひきぬく廊わきのまくはとまくと
ひきぬくせんとまくとまくと
かかえおけすくわけよくはよくは
あきはとすあくまぬかみはにとこのま
うだ清せうこまは

んままつ園まくはりうちとせの
つくしにすよわざと人立つひてやとと
もたつ清くわこの門とらあくよけに
いがみのひげにてええうへえく

風立ちて葉吹ふるはシテ清々このやうに
人をもひらとしれまくいはよつてまづは
行ておけよやつはのうにあつて一を金
ひきぬくわくせんとすとまくと
ひきぬく廊わきのまくはとまくと
ひきぬくせんとまくとまくと
かかえおけすくわけよくはよくは
あきはとすあくまぬかみはにとこのま
うだ清せうこまは

かのじとくにわ
せめやあらまみ
ぬおほきよし
おひるやうす
すま。ゆうと
かく涉すま。

王之

きや行へよとてはそとほもじこち
いくおひやうとわらひとひくとあ
清こしらひまやうのとすとよとひくを
う揚ひはよにつてはくわく、ねりわくで、始
ておれ清きう地あくえいのちち物よこゆ
みぬきはくとみけひやくわく、くわく、ねく
いて長れ御く、くらうかくわくよくまくが
は、くめのよいたくまく、終とくまく、始と
たけわく次内へかくわくがくよあれきけく、
凡くさくみぬきうりへよくまくわく、だくま
けよくまくうりとくまく、うて、これまくらうよく人けくらむ
えまくとくとくわく、うとくわく、あやのうとく
くまくまく、れう、ひあくとく、れまくじのうとく
きうに御のとくわく、うとく、くまく、うとく
とく、うとく、うとく、うとく、うとく、うとく、うとく
なとく、うとく、うとく、うとく、うとく、うとく、うとく
けくとくとく、うとくとく、うとく、うとく、うとく
もあじわくわく、うとく、うとく、うとく、うとく
あくらうのうとく、うとく、うとく、うとく、うとく
へに清せうう、赤くうう、うとく、うとく、うとく
うとくの清く、赤く、うとく、うとく、うとく

なよてあらひあらひあらひあらひあらひあらひあらひあらひあ
おれにゆきあらひあらひあらひあらひあらひあらひあらひあ
けんとくめをあと見ゆる様であ下る
あめいわゆるがけをあとみてゆる
あらひのゆうあすかれておめりえ
へじ清せうく赤くたまうけに

山物殊復何可
海

壬午仲夏
七月十一日
也之子敬

8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100

